

## 生誕 100 年 「山下清」展 一百年目の大回想

SOMPO 美術館(西新宿) 23.06.24~09.10

「山下清」(1922~1971)は、放浪の天才画家として知られており、とても懐かしい日本の原風景や名所を「貼絵」で表して多くの人々の心を捉えた。

本展は、生誕 100 年を記念して代表的な貼絵の作品に加えて、子供時代の鉛筆画や後年の油彩、陶磁器、ペン画などの画伯の生涯と画業を紹介している。

彼は、日本各地を自由気ままに旅する生活を好み、驚異的な記憶を持ち、スケッチやメモを取らずに、旅先で見た風景を細部まで正確に思い出すことができ、旅から戻ると高い集中力を発揮して、手で細かくちぎった紙片を貼って作品を完成させるという独特の技法で完成させているのには全く驚きである。

「山下清」は、18 歳で学園を飛び出して放浪の旅をするが、行く先々で多くの人に食事を乞いながらの道のりは、決して楽なものではなかったが、旅先で養われた色彩感覚は豊かな表現力につながっていた。

### <見どころ>

#### 1. 山下清の生誕 100 年を記念する大回顧展

昭和の時代に「日本のゴッホ」とも呼ばれた放浪の天才画家の画業と人生を振り返る大規模な展覧会。

#### 2. 芸術家「山下清」の真の姿に迫る

気ままな旅に持参したリュックや着ていた浴衣などの関連資料と併せて、緻密で繊細な表現そして職人技といえる高い技術を示す貼絵など「約 190 点」の作品によって、人物像と制作活動を紹介している。

#### 3. 旅の風景を鋭い観察眼で捉えた「山下清」の世界

驚異的な記憶力と集中力を併せもつ画伯は、旅先で見た風景を細部にまで正確に思い出し、手で細かくちぎった紙片を緻密に貼り合わせることで、超絶技巧的な貼絵を生み出し、手の込んだ細部描写と豊かな色調を生み出している。



《長岡の花火》1950 年



《ロンドンのタワーブリッジ》



《ぼけ》1951 年